

平成27年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成28年 2月12日

研究・研修課題名	「遺伝子分析科学認定士（初級）」試験の受験
研究・研修組織名（所属）	検査部
研究・研修責任者名（所属）	澁田 比呂志
共同研究・研修者名（所属）	

目的及び方法、成果の内容

1. 目 的

遺伝子分析科学認定士資格を取得し、より質の高い検査結果を提供する。

遺伝子検査は病理、血液、病原微生物など、広範囲な検体を対象とした先端の検査であり、広汎な知識とともに専門的な検査技術力が求められる。認定士資格取得により信頼価値の高いデータを臨床診療に提供することができるとともに、新規遺伝子検索技術の構築など、今後の遺伝子検査の発展に貢献できる。

2. 方 法

2015年6月20日に東京大学医学部にて開催される指定研修会に参加し、翌21日に第9回認定血液検査技師試験を受験する。

■ 指定研修会（2015年6月20日 東京大学医学部）

- 13時00分 受付開始
- 13時30分 オリエンテーション
- 13時40分 講義①：遺伝子関連検査について
- 14時40分 講義②：遺伝子疾患について
- 16時00分 講義③：遺伝子検査の実際
- 16時50分 閉講式、指定研修会受講証明書配布
- 17時00分 閉講

■ 認定試験（2015年6月21日 東京大学医学部）

- 9時00分 受付
- 9時30分 筆記試験説明・試験開始
- 11時00分 筆記試験終了
- 11時10分 動画試験開始
- 12時10分 動画試験終了
- 13時00分 実技試験開始
- 16時00分 実技試験終了

③成 果

第9回遺伝子分析科学認定士試験を受験し、初級の認定資格を取得した。

現在、腫瘍や病原微生物、遺伝子病などへの遺伝子検査が先進医療や幾つかの保険診療にて実施されているが、施設毎の実施法や精度管理において統一がなされていない。遺伝子検査は特異度・感度ともに高く、診断の決め手になる一方、その専門家が少ない。遺伝子分析科学認定士とは、日本遺伝子分析科学同学院分野における高度な専門知識および技術に対応できる遺伝子分析科学技術者の育成と遺伝子関連検査の発展・普及を促進することを目的とし、遺伝子分析法の技術水準の向上とその標準化を目的とする認定試験である。本資格を取得する過程で得た知識と技術により、地域の遺伝子診療の発展につなげたい。

* 日本臨床検査医学会，日本遺伝子分析科学同学院
遺伝子分析科学認定士（初級） 認定証 受領済 【2015年11月1日】